

会員建築作品紹介



「白い家」

(東京都稲城市K邸木造＜枠組み壁工法＞2階建て97.71㎡)

県西支部 岩田 英雅

5

この家は私が今まで住宅を設計する上で禁じ手としていた、“吹き抜け”を導入した最初でおそらく最後となろう物件である。

白い家が欲しい、というのが第一の要望でしたが、建築雑誌の切り抜きを見せられ、吹き抜け、スキップフロアー、天井の高いリビング、蔵、ロフトにタラップ、中庭とウッドデッキ、と要望が出ました。

改築工事などにも携わっていると特に吹き抜けのある家に住んでいる家族からは多くの不満の声を聞きます。例えば、祖父が建築家で昭和初期に北側の食堂の上に吹き抜けを作ったが、孫の代で冬あまりにも寒いので塞いでくれ、だとか、12帖大の吹き抜けを作ったが風が吹くと揺れるので補強してくれ、（これも塞ぎました。）など。

概ね、吹き抜けを希望する施主は吹き抜けのある家に住んだことはなく、その不便さ、恐ろしさを知らない。おそらく設計する側も同じである。

素人は雑誌やテレビしか参考にしない。その雑誌やテレビでは暑さ寒さ、匂い、音などは伝わらない。ましてや構造耐力は伝わらない。プロである建築士が吹き抜け

のあるプランを持ってくれば安心して飛びつく。自戒もこめて吹き抜け住宅を計画しなかった理由である。

お施主さんには私が推奨する吹き抜け対策の構造計画から説明して、最初の提案で快諾して頂きました。先日の震災ではこのお宅の被害が頭をよぎりましたが、実際は何の影響もなかったそうです。震災の度にこんな心配をするのはもうこりごりです。聞くところによると夏は吹き抜けの部屋はどうしても暑いそうです。天井にウィンドウファンも付けたんですけどね、役にはたたないようです。

